

寺田寅次郎の謎

野村 学

寺田寅彦に関して興味深い資料をみつけたので紹介したい。

そもそもは寅彦ではなく魚類学者・田中茂穂の資料を探すためにインターネットの古書店サイト「日本の古本屋」を覗いていたところだった。[田中茂穂]で検索して表示された結果一覧に『科学世界』という古い雑誌があった。表紙の画像がアップされていたのでクリックして拡大表示させてみる。表紙には目次があつて(写真1)、そこに田中茂穂の名前があつた。「魚の色」という記事である。表紙上部の「二十世紀は科学万能の時代なり」というキャッチフレーズが時代を感じさせる。明治41年3月5日発行。手頃な値段設定だったので購入を決意し「かごに入れる」ボタンを押そうとしたその刹那。[田中茂穂]の左に目が行った。[寺田寅次郎]とあ

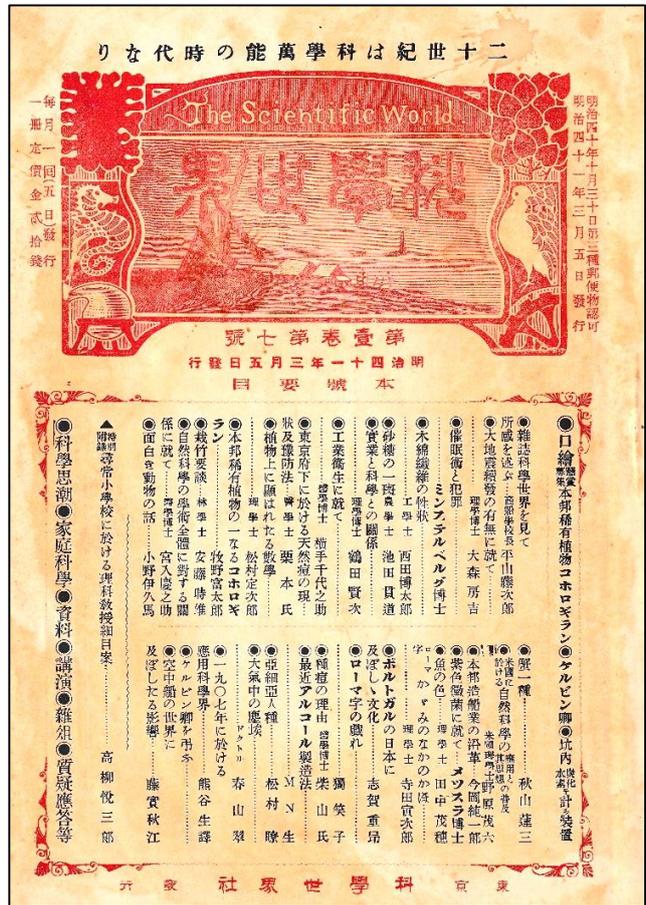


写真 1 『科学世界』表紙

ーん？寺田寅次郎？

寅彦研究を趣味とするようになってからどうもわたしは「寺」とか「寅」とかいう文字に敏感になっている。このときも目の端にはいった「寺」や「寅」にわたしの脳が反応したようだ。「寺田寅次郎」から視線を上に移し全体を見渡すと、「ローマ字 かゞみのなかのかほ…理學士 寺田寅次郎」とあつた(写真2)。

ーローマ字？理學士？寺田寅次郎？こ、これは？！

わたしは静かに興奮した。これはもしや寺田寅彦のことではないのか？なぜ「寺田寅次郎」なのだ？誤記なのか？様々なことが脳裏をよぎった。いずれにしても現物を確認しなければ話にならない。わたしは迷わず「購入ボタン」を押した。

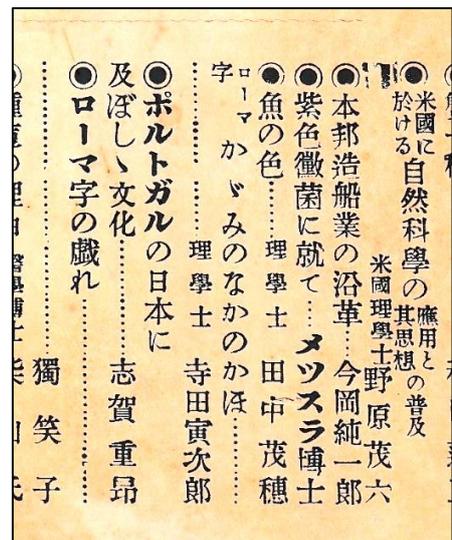


写真 2 表紙拡大

注文の品が届くまでの間にわたしにはやらなければならないことがあった。『寺田寅彦全集第十七巻』を調べることである。平成版寅彦全集第十七巻には「著作索引」(※1)が付いている。非常に便利だ。もし「寺田寅次郎」が寺田寅彦のことであれば「かゞみのなかのかほ」は全集に載っているはずである。載っていないならば「寺田寅次郎」は寅彦とは別人だろう。あるいは全集未収録の新資料の可能性もある！はやる心をおさえて第十七巻を開いた。すると…索引の「か」の欄に…あった。「鏡の中の顔」。さすがだ。小宮豊隆をして「寅彦が寅彦になるまでに書いた、一切のものを輯録」(※2)したと言わしめる寅彦全集に抜かりはない。感心すると同時に少しがっかりもした。

数日後『科学世界(第壹巻第七號)』(※3)が届いた。やはりどう見ても「寺田寅次郎」とある。わたしはあらためて考えた。なぜ「寺田寅次郎」と表記されているのか。ただの間違いなのか。あるいはペンネームではないか。寅彦は多くの筆名を操る事で有名だ。「寺田寅次郎」もそのひとつではないか。たしか全集の月報に寅彦の筆名を纏めた資料があったはずだ。確認してみよう。わたしは部屋に積まれた資料をゴソゴソと漁り昭和11年版寅彦全集の月報(『寅彦研究』)を探した。果たして『寅彦研究 第1号』に「寺田寅彦筆名集」(※4)があった。そこには「牛頓」から始まって「藪柑子」や「吉村冬彦」など著名な筆名や「建依別」、「チグリサンドレス」などのマイナーなペンネームなど19の筆名が紹介されている。しかしその中に「寺田寅次郎」なるものはなかった。やはり単なる誤記なのか。

もうひとつの視点として、改めて問題の『科学世界』を見ると執筆者には「牧野富太郎」や「大森房吉」など名だたる学者の名前がみられる。もちろん実名である。牧野富太郎は改めて紹介するまでもないが、東大教授である大森房吉は地震学の重鎮であり寅彦も関係する震災予防調査会の中心人物である。東京での大地震発生の可能性について今村明恒と論争を交わしたことで有名だ。高校で教わる「大森公式」にもその名を残す。そうそう、わたしの当初の目的であった寅彦の旧友・田中茂穂も実名である。後年、大学にはばかり「吉村冬彦」などの筆名を用いた寅彦だが、この際寅彦が変名を使用する必然性はない。『科学世界』という雑誌の性格上むしろ堂々と本名で勝負するべきだろう。わたしはやはり「ただの間違い」と結論した。

では、なぜ『科学世界』編集部はこのような間違いを犯したのだろうか。明治41年のこと。いまさら分かるはずもないといわれればそれまでだが可能な限り原因を探してみよう。まず確認しておきたいことは、目次はひらがな・漢字表記であるが、記事本体はローマ字で書かれているということだ。署名も「*Rigakusi TTerada.*」とローマ字書きされている(写真3)。とすれば原稿を渡された編集担当者は目次を作る際、署名の「理學士 寺田」までは分かっていたが、「T」で示されるファースト・ネームが分からなかったのではないか。そしてそのファースト・ネームの確認作業中に「間違い」は発生したとわたしはみる。更に「間違い」の発生した原因が「聞き間違い」であると推理した。以下にその根拠を示そう。

「寅彦」と「寅次郎」という名前には聞き間違いを誘発する要素が二つ含まれている。「母音」と「アクセント」である。まず「母音」をみていこう。「寅彦」と「寅次郎」をそれぞれローマ字表記してみると、「寅彦」=「TORAHIKO」、「寅次郎」=「TORAJIRŌ」となる。どちら

も母音は [O・A・I・O (お・あ・い・お)] となる。つまり言葉にすると似通った発音になる。

「寅太郎」ではこうはいかない。これが第1のトラップである。

次に「アクセント」を取りあげたい。紙上では音声を伝えることができないので視覚的にイメージできるようにアクセント表記法を考えてみた。

下記の下線部について大きい文字ほど相対的に音程を高く、小さい文字ほど相対的に音程を低く発音していただきたい。つまり発音する際、標準語

では「寅彦」はトラヒコ、「寅次郎」はトラジロ

であり、アクセントが同じであることが分かる。

これが第2のトラップ（補記参照）。

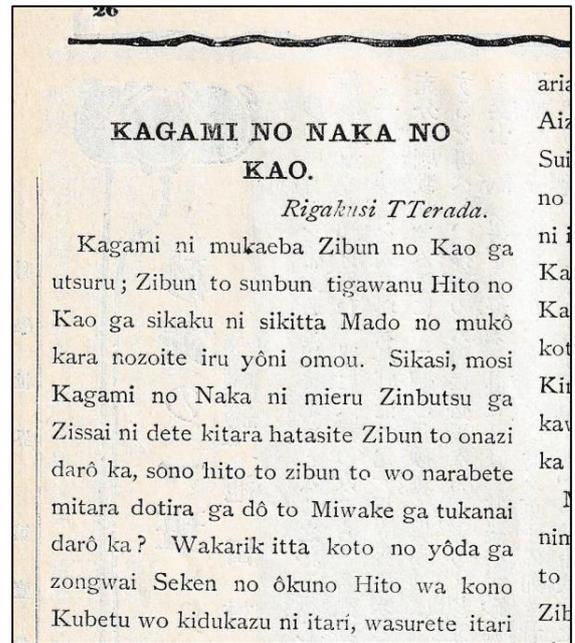


写真 3 「鏡の中の顔」冒頭部

以上述べた2つの罫により、『科学世界』を出版した東京科学世界社編集部内では「寅彦」と「寅次郎」の聞き間違いが発生したのではないだろうか。例えば以下のように。

明治41年2月。『科学世界』編集部のある日の会話（想像）。

担当者：ねえ主任、『科学世界』の目次作ってるんですけど、今月号の「KAGAMI NO NAKA NO KAO.」を書いたこの^{テイー・テラダ}“TTerada.”って誰なんです？

主任：なんだ、佐藤くん（仮名）、知らないのかい。しょうがないやつだなあ。そりゃあ君、寺田先生だよ、帝大の。

担当者：ふうん、寺田先生ですか。

主任：そうだよ。夏目先生の『吾輩は猫である』にも登場するだろ、理学士・水島寒月として。新進気鋭の物理講師だ。

担当者：へえ、物理の先生ですか。知らないなあ。田丸先生なら知ってるんだけどなあ。で、下の名前は何です？目次に書かなくちゃいけないんですけど。

主任：んっ？下の名前？ええっと、たしか寺田トラ、トラ、トラヒコ？…だったかな。

担当者：はい？？すみません、ちょっと聞き取れなくて。トラジローですか？

デスク：おおい！佐藤くん！佐藤く～ん！

担当者：あっ、は～い！何ですか～！デスク～！

デスク：何ですかじゃないよ！目次はまだかい！時間が無いよ！時間が～！

担当者：すみませ〜ん！すぐにあがりま〜す！

主任！主任！トラジローの「トラ」は干支の「寅」ですか？！

主任：そうだ！トラヒコの「トラ」は干支の「寅」だ！

デスクがお待ちかねだ。佐藤くん、急げよ！

担当者：了解です！ええっと、トラジロー、トラジロー……。[かゞみのなかのかほ 理學士 寺田寅次郎] っと。よし完成！デスク〜！できましたあ！！

とまあ、このような会話があったかどうかは定かでないが、いずれにしても編集のどこかのタイミングで「寅彦」が「寅次郎」にすり替わったことはまちがいない。

聞き間違いを生む素地として最後にもうひとつ。「KAGAMI NO NAKA NO KAO.」が書かれた明治 41 年当時、随筆家・寺田寅彦はまだ誕生していない。読書界に対しては無名である。[寺田寅彦] といっても知るひとはほとんどいない。だから編集部でも見逃された。校正もすり抜けた。そして「寺田寅次郎」の名が『科學世界』の表紙を飾る仕儀となった。

聞き間違いが生み出した [寺田寅次郎]。以上がわたしの推理である。

補記：「寅次郎」については山田洋次監督『男はつらいよ』シリーズの車寅次郎を思い浮かべていただければそのアクセントはお分かりだろう。「寅彦」の場合、少しややこしいのが、アクセントが地域によって違うことである。例えば高知県人であるわたしが発音すると [寺田寅彦] は テラダ トラヒコ と平板なアクセントになる。ここでは標準語を基準とするべく『DVD 学問と情熱 寺田寅彦』（※5）でナレーションを務めた湯浅真由美氏の発音を確認し

た。湯浅氏は テラダ トラヒコ と発音している。同氏は NHK 番組でも MC やナレーションを務めておりその発音は標準語とみてよいだろう。ちなみに同 DVD に出演している池内了氏

（兵庫県出身）の発音は テラダ トラヒコ であった。標準系と高知系のハイブリッドである。

（参考・引用文献）

※1「著作索引」（『寺田寅彦全集 第十七巻』所収・岩波書店・1998 年）

※2「寅彦全集に就いて」（「寺田寅彦全集 文學編十六巻 刊行案内」所収・小宮豊隆・岩波書店・昭和 11 年 9 月）

※3『科學世界（第壹巻第七號）』（東京科學世界社・明治 41 年 3 月 5 日）

※4「寺田寅彦筆名集」（『寅彦研究（第一号）』所収・岩波書店・昭和 11 年 10 月）

※5『紀伊國屋書店評伝シリーズ 21 世紀へ贈る人物伝 学問と情熱 第 4 期 第 31 巻 寺田寅彦 ねえ君、不思議だと思いませんか？』（監修/池内了・紀伊國屋書店・2005 年）